DTSU666-CT
設置ガイド

1 概要

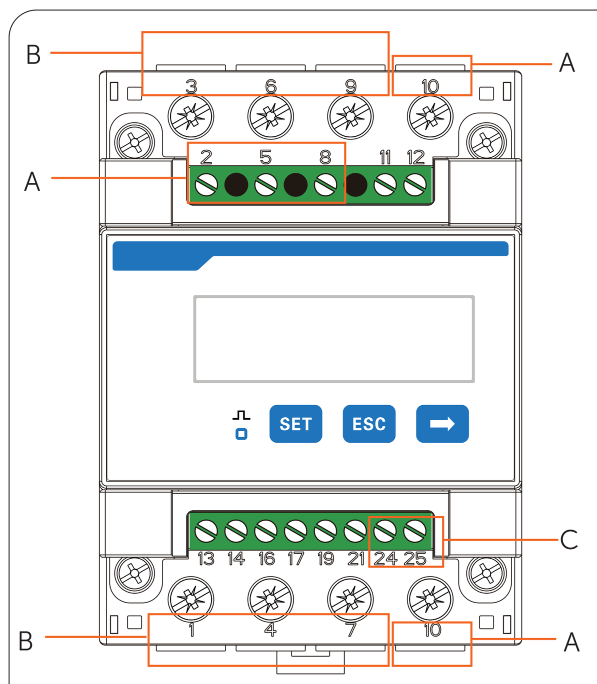


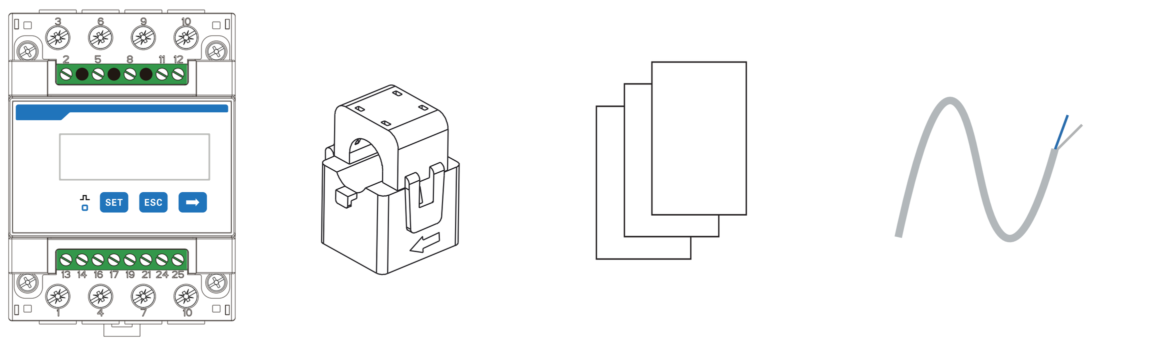
図 1-1 DTSU666-CT 正面図

No.	端子番号	信号名	説明
A	2, 5, 8	UA, UB, UC	A 相、B相、C相電圧入力それぞれL1、L2、L3線（電圧線）に接続する
	10	UN	中性線に接続する
B	1/4/7	IA*, IB*, IC*	A 相、B相、C相電流入力、CTのS1線に接続する
	3/6/9	IA, IB, IC	A 相、B相、C相電流出力、CTのS2線に接続する
C	24	RS485A	RS485 A端子
	25	RS485B	RS485 B端子

表 1-1 DTSU666-CT 端子部の説明

注：枠内の端子はペアです。

2 同梱品



メーター × 1　CT × 3　資料 × 1　10m 通信ケーブル × 1

注 : 同梱品 CT の型式は NCTK24 200A/5A です。CT のオプション品は取扱説明書に参照してください。

3 設置

スマートメーターを分電盤内のDIN35mmのガイドレールに設置してください。

手順

システム配線図に従い配線します。次にメーターをガイドレールに取付、ガイドレールに沿って所定の位置に押し込みます。

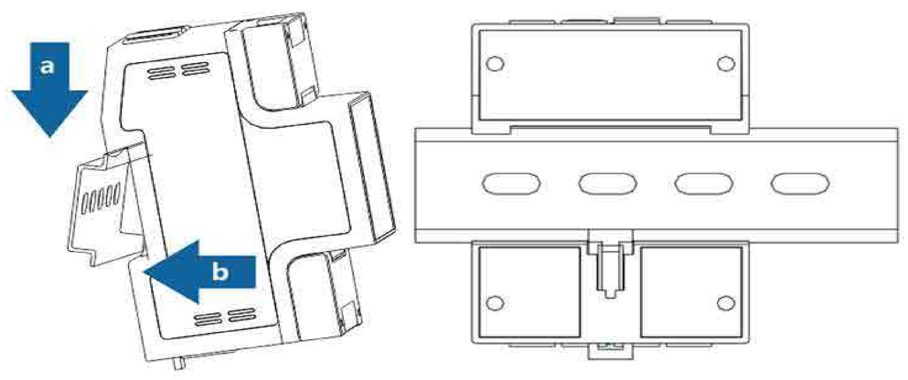
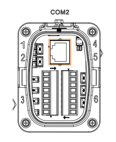
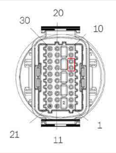


図 3-1 スマートメーターの設置

4 適用パワーコンディショナとコネクタのピン配列

DTSU666-CT は単相および三相パワーコンディショナ（下表適用機種参照）に対応しています。配線の際は、コネクタの種類およびパワーコンディショナのピン配列に注意してください。

表 4-1 適用パワーコンディショナとコネクタのピン配列

パワーコンディショナ シリーズ	端子部	コネクタ	信号名	備考
X3-AELIO		RJ45	4	485A
			5	485B
• X3-MEGA G2 • X3-FORTH		クイックコネクト端子	7	485A
			8	485B

5 トラブルシューティング

下記はメーターをパワーコンディショナに接続する際、よくあるご質問や対処方法です。問題が発生した場合は、以下内容をご確認いただき、原因と対策を確認してください。さらにサポートが必要な場合は、SolaX アフターサービスへ問い合わせください。

01 メーターの配線や設定をしましたが、パワーコンディショナの LCD パネルまたは SolaXCloud に「メーターエラー」が表示されています。

メーターとの通信を失敗したときに、「メーターエラー」が表示されます。下記の手順に従ってください。

1 配線図を参照に配線を確認してください。メーター端子 24、25 はパワーコンディショナの RS485 端子 A、B に接続してください。ピン配列は、「適用パワーコンディショナとコネクタのピン配列」および該当するパワーコンディショナの説明書を参照ください。

2 メーターの設定を確認してください。通常、弊社パワーコンディショナに通信の際は、メーターのアドレス「001」、ボーレート「9600」、パリティ「なし」、ストップビット「1」に設定する必要があります。これらの設定は出荷前に設定されております。現在のメーター設定が正しくない場合は、メーターの説明書を参照し、修正してください。

3 販売店または SolaX のテクニカルサポートに連絡してください。

02 メーター測定値（電力など）が実際値と異なっているようです。

測定値が実際値とかけ離れている場合は、配線の誤り、不適切なCTの接続、不適切なメーター設定、メーター機器の問題などによって発生する可能性があります。

以下は、測定値の異常に関するか一般的な問題とその対処方法です。その他の状況については、販売店またはSolaXのアフターサービスにお問い合わせください。

- **相に流れる電力量方向が実際と逆になっています。例：実際は順動作 2kWh、測定は逆動作 2kWh**
  CT の矢印をパワーコンディショナ / 負荷になるように取り付けてください。
  CT の S1 および S2 線は、メーターの入力端子および出力端子にそれぞれ接続してください。
- **測定値が実際値より比例的に大きくまたは小さくなっています。例：実際は 2 kWh、測定は 1 kWh**
  メーター変流比が CT の規格と一致しているか確認してください。一致しない場合は、メーターの説明書を参照して設定をリセットしてください。

6 システム配線図の例

DTSU666-CT は、三相 4 線式（3P4W）および三相 3 線式（3P3W）に対応しています。三相 3 線式の場合、中性線は接続する必要はなく、B 相に CT を設置する必要はありません。下記は三相 4 線式を例に示します。

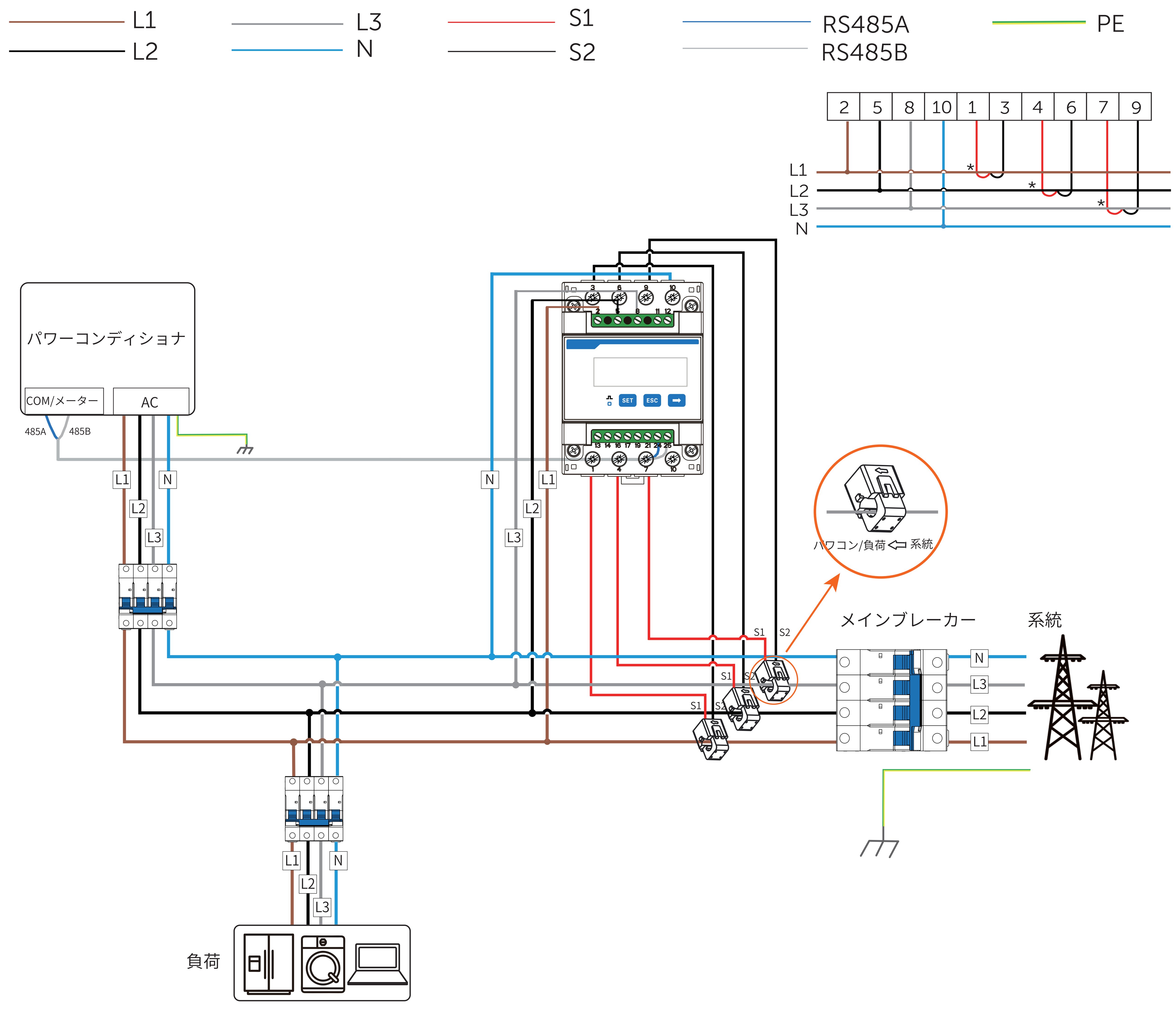


図 6-1 メーターをパワーコンディショナに接続する

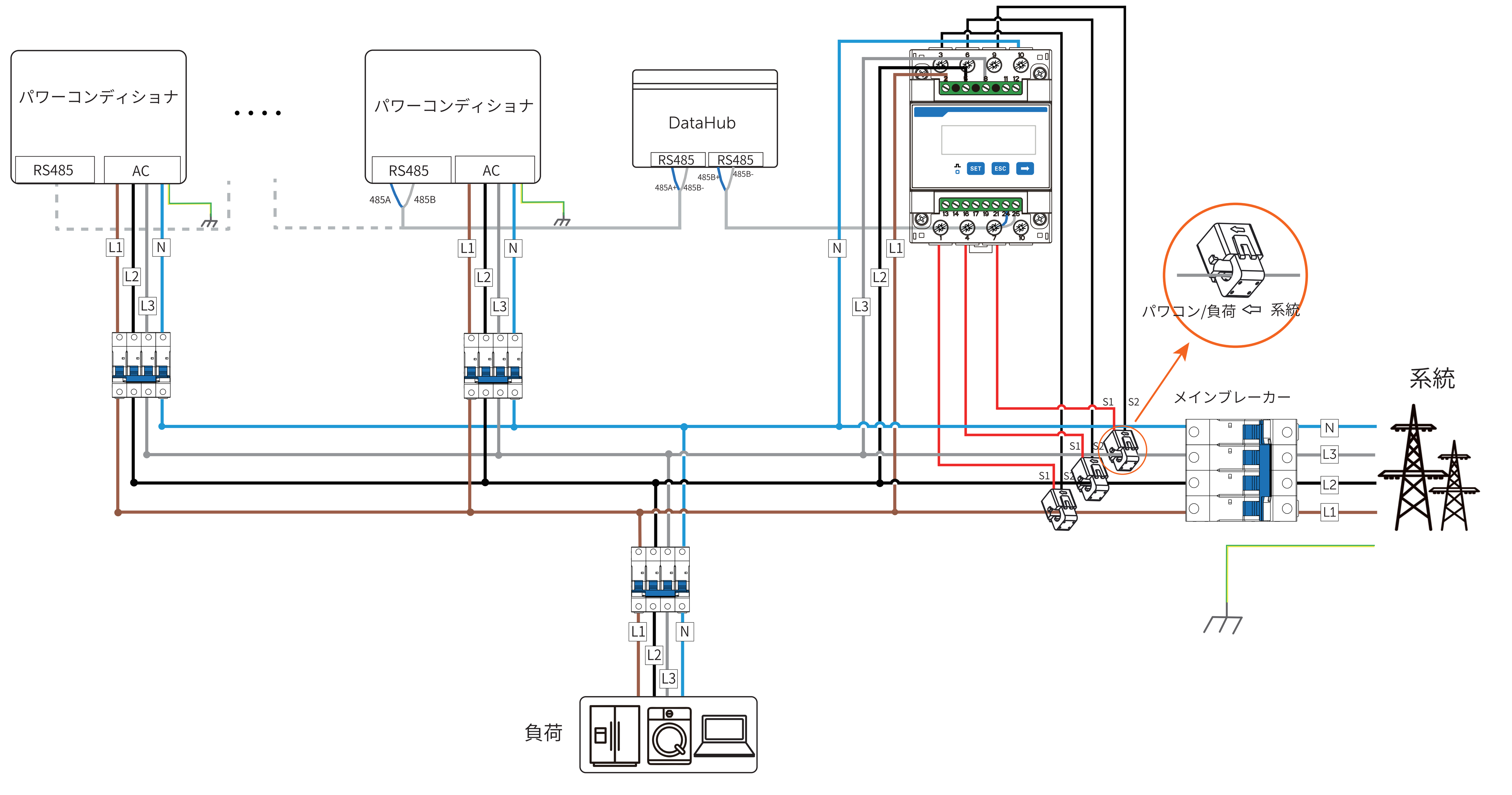


図 6-2 メーターを DataHub に接続する

注：上図は系統連系パワーコンディショナのカスケード接続の例です。DataHub はパワーコンディショナの RS485 端子に接続します。パワーコンディショナの機種によって、RS485 端子が異なる場合があります。配線の詳細については、パワーコンディショナおよび DataHub の説明書をご参照ください。